



# ランナーズ財団

# NEWS

Vol.2



公益財団法人ランナーズ財団  
公式ホームページ



## 市民ランニング50年

走友会の老舗であり、皇居一周をホームコースにしている「千代田走友会」の例会（1974年撮影）。写真中央は、1976年2月創刊の月刊「ランナーズ」初代編集長、下条由紀子



人力の観光自転車



長谷川峻 代議士（労働、運輸、法務の大臣職を歴任）



当時は専用のランニングバッグがなかった



俳優の田中邦衛さん



ワイシャツ姿のランナーも



しかし、東京で本格的なシテイマラソンが開催されるのにそれから32年の月日を要した。

そのころ皇居では、周辺の会社員、店主や官公庁などの職員が思い思いの格好で、それぞれのペースで走り出していた。皇居をベースとした走友会も誕生した。ボストンマラソン優勝者の山田敬蔵氏が、そうした街のランナーを引き連れてボストンマラソンに走りいくというツアーも実施された。

今から50年前の1975年、前年の福岡国際マラソンでアメリカのフランク・ショーター選手が4連勝を達成していた。その様子はテレビで生中継されマラソンは人気番組だった。アメリカではハワイのホルルマラソンが2回目を迎え、5回目を迎えたニューヨーク・シテイマラソンは市街地を交通遮断して数千人が走る大会になろうとしていた。

### CONTENTS

#### 1 第35回ランナーズ賞 受賞者発表

選考にあたって（選考委員長 増田明美）

2 受賞者紹介 サロマ湖100kmウルトラマラソン

3 受賞者紹介 大森英一郎氏

4 受賞者紹介 岡崎芳彦氏

#### 5 市民ランナーの聖地「皇居ラン」コース

2025最新事情

7 官から民への「公募設置管理制度」活用例

ランナーズ財団からのお知らせ



## ランナース賞とは

ランナース賞は、市民ランニングの普及・発展に貢献してきた個人や団体、また日々ランニングの新しい世界の発見に努めている人たちを称える賞です。1988年の第1回から本年2025年の第35回まで、113の個人・団体がランナース賞を受賞しました。受賞者には、主催の公益財団法人ランナース財団より、正賞のトロフィーならびに副賞として賞金200万円\*を贈呈します。\*大会には記念碑を贈呈

サロマ湖100kmウルトラマラソン（北海道）・大森英一郎さん（神奈川県）・岡崎芳彦さん（山口県）  
2025年の第35回ランナース賞の受賞者は、上記の1大会と2名の方々に決定しました。

## 第35回ランナース賞の選考にあたって

ランナース賞選考委員会委員長 増田明美

街のイルミネーションが美しく輝いています。第35回ランナース賞も、輝きでは負けていません。受賞者を紹介しますね。

サロマ湖100kmウルトラマラソン。1986年に創設され、話題になりました。当時、国内に本格的なウルトラマラソン大会は存在せず、「北海道のオホーツクエリアで100km走る」という大会の誕生に、皆びっくり。100kmは未知の距離だけど、走りながらランナーが思う「このままずっと走っていたい」「どこまでも遠くへ」という気持ちに込められているものでした。夢への挑戦だったのです。サロマ湖の雄大な景色、沿道では齋藤商店の齋藤登久代さん（2008年、第21回ランナース賞を受賞）など、たくさんの方が温

かなおもてなしをしてきて人気が呼びました。大会の成功は、全国各地でウルトラマラソン大会が開催されるきっかけとなり、日本のウルトラマラソン文化の礎を築いたと言っても過言ではないでしょう。

大森英一郎さんは、法政大学陸上部出身で箱根駅伝9区を走った元競技ランナーです。2015年に起業し、ランナー向けSNSや、地域で誰もが参加できるランイベントを展開してきました。コンセプトは「もっと自由に、楽しく走れる世界」。景観や旅を楽しむ「ランのカルチャー」を発信しながら、イマドキなやり方でランの世界を広げてきています。

そして岡崎芳彦さんは、50年のランニング歴を持つベテラン

## 51年目からの未来を創るために

公益財団法人ランナース財団理事長 野平修

「ランナース賞」は、1988年、当時雑誌ランナース編集長・

下条由紀子、同誌編集顧問の東京慈恵会医科大学教授・故小野三嗣氏、出版元の株式会社ランナース社長・橋本治朗の三氏の構想のもと創始されました。

「地道な努力を続け、市民ランニングを陰で支えている人や団体の活動を讃えること」を謳い、多くの方々の表彰し、ランニングというスポーツが年齢、性別、職業、地域を問わず広く社会に

受け入れられてきたことを証明してきました。

2027年東京マラソン開催を皮切りに全国に都市型シティマラソンが次々に誕生、コロナ禍を経た今、日本の市民ランニングの歴史は50年を迎えました。次の一步を踏み出すにあたり、ランナース賞が市民ランニングの更なる発展の一助になることを念じ、公益財団法人ランナース財団は、新たなチャレンジを続けてまいります。

ランナーです。2007年から「山口ランニングネットワーク」を主宰し、講演会・合宿・セミナーを開催。下関海響マラソン大会などの企画や運営協力で地域活性化にも貢献しています。 Mottoは「無理せず、楽しく、正しく」。利他の精神で、たくさんの人を幸せにしているのです。

大森さんと岡崎さん、おふたりに共通しているのは、ランニングを「楽しむもの」として広めている点。初心者を迎え、誰もが参加できる場を作っています。おふたりのキャリアや活動内容は違っても、「ランニングを楽しむ文化を広げる」という共通の理念にたどり着いているね、と選考委員会での意見にもありました。

都市の発信力と地域の温かさ、若い挑戦と豊かな経験。同じ志で響き合えば、さらに日本の市民ランニングの世界は面白くなる！と期待しています。

### 選考委員

 谷川真理 マラソンランナー	 近藤雄二 読売新聞編集委員	 福田六花 医学博士、ミュージシャン	 増田明美 選考委員長
 野平修 (公財)ランナース財団 理事長	 行場竹彦 月刊ランナース 編集長	 橋本宗明 明走会会長	 若林順子 フリーアナウンサー

# 第35回ランナーズ賞受賞



左がオホーツク海、右がサロマ湖、中央の緑地がワッカ原生花園



常呂町民センターがフィニッシュ地点

1986年にわずか58人の挑戦から始まった「サロマ湖100kmウルトラマラソン」は、今年2025年、記念すべき第40回めの開催を迎えた。日本におけるウルトラマラソンの先駆的な存在として、国内のウルトラの歴史と共に歩み、今や約4000人が参加する日本最大級の100kmレースへと成長。ウルトラでは初の日本陸連公認コースとなり、100kmロードの世界記録も男女ともにここから出た。\*

コースはサロマ湖沿岸を中心に、オホーツク海や北海道遺産に選定された「ワッカ原生花園」を眺めながら走るワンウェイ。朝5時にスタートする100kmの部の制限時間は、13時間。100kmの部を10回以上完走した



## 「いつかはサロマ」の合言葉でも知られる、国内100kmマラソンの原点 サロマ湖100kmウルトラマラソン

(北海道湧別町・佐呂間町・北見市)

参加者には「サロマンブルー」の称号が与えられ、さらに2007年大会より、サロマンブルーの次のステップとして、20回以上の完走者に「グランドブルー」という新たな称号を設置している。

サロマならではの雄大な自然の中、ボランティアスタッフや沿道からの温かい応援に励まされフィニッシュをめざす100km。ウルトラを走るランナーにとっては、憧れの地ともいえる唯一無二の大会だ。

### 受賞コメント

当大会は、これまでに地域のボランティア、そして警察をはじめ関係機関の方々のご協力をいただきながら国際陸連や日本陸連の公認コースとなり、海外からの選手も受け入れ、今年の第40回大会では100kmの部に3684人、50kmの部に591人も選手が集まる大会に成長しました。

今回の受賞は当大会を支えてくださった方々、そして、これまで当大会に参加くださったすべてのランナーのおかげです。心より感謝申し上げます。

(大会事務局長 内藤聡)



サロマ湖畔に建つ42.195km地点の碑



参加者は毎回ほぼ全都道府県にわたる



80kmより先のワッカ内はコースで唯一の往復路。ランナー同士で励ます

### サロマ湖100kmウルトラマラソンで出された100kmロード世界記録\*

#### <男子>

砂田貴裕 (1998年当時) 6:13:33  
 風見尚 (2018年当時) 6:09:14  
 山口純平 (2023年) 6:06:08 ※現日本記録  
 \*現世界記録は、6:05:35アレクサンドル・ソロキン (リトアニア、2023年)

#### <女子>

安部友恵 (2000年) 6:33:11 ※現世界記録



感動のフィニッシュ



寒暖の差が大きいのもこの大会の特色

# 第35回ランナーズ賞受賞



法政大学陸上競技部出身。スポーツ推薦枠の選手ではなかったが、3年生で箱根駅伝チームの補欠、4年生で9区を走った

Webマガジン、動画配信、オリジナルグッズ販売、イベント企画、アプリ開発など、様々なチャレンジを続けてきたなかで際立つ特徴は、地域活性化への貢献や、SNSとご褒美（ポイント設定）による「ランニングを継続することの促進」だ。走る楽しさを再定義しながら、テクノロジーとコミュニティを活用してランナーのライフスタイルを豊かにしたい、という意志が感じられる。

YouTubeの「Runtripチャンネル」は、2025年9月現在、登録者数9.2万人。オンラインのみならず、リアルな現場の活動もアグレッシブに展開しており、今年は特に、東



「もっと自由に、楽しく走れる世界」への  
仕組みづくりを続ける

大森 英一郎さん（神奈川県・40歳）



箱根駅伝後はまったく走らなくなった。しかし2012年に地元・横須賀で小さなランニングイベントを開催（ジョギング先頭が大森氏）

京マラソンEXPO2025への初出展、東京・代々木公園に「Runtrip BASE YOYOGI PARK」をオープン、大型商業施設をランニングの拠点として活用するイオンモール太田でのグループプラン開催を果たした。

## 受賞コメント

起業から10年、最初はひとりで始めた小さな挑戦が、いまでは多くの仲間を支えられ、このようにご評価いただけるようになったことをとても光栄に思います。

この歩みを共にしてくださったすべての皆さまに心から感謝申し上げます。

これからも、健康で平和な世界を願って「もっと自由に、楽しく走れる世界」の実現に向け精進し続けます。



月に1回、開店前のイオンモール太田で行う館内ランニングイベント。初心者や高齢者、親子の参加が多く、30分ほどかけて2kmをゆっくり走る。天候に左右されず、冷暖房完備で休息エリアも十分

## ランナーズ賞 選考指標



- 継続性** 長きに渡ってランニングを実践し、ランニングに関わる活動を続けている
- 社会貢献** 他のランナーや社会から高い評価を受ける活動をしている
- 奉仕精神** 自らの損得に関わらず、他者や公共の利益のために進んで活動している
- アカデミック性** 科学的分野における発展やランナーへの普及活動に寄与している
- チャレンジ** 新しい分野や大きな目標に挑戦していく強い気概を持って活動している
- 独自性** 他のランナーが行っていないユニークな活動を継続している
- 先進性** 未開拓だった分野において、確かな実績を残している
- ネットワーク** 多くのランナーとネットワークを形成している
- 話題性** 近年注目されている分野や出来事に関わっている
- 人間性** 周囲のランナーから人望が厚い

# 第35回ランナーズ賞受賞



地元・山口県で、市民ランニング普及のための草の根活動

**岡崎 芳彦さん** (山口県・66歳)

中学生のときに陸上競技を始め、美祢工業高校時代に全国高校駅伝出場。美祢市役所に勤めてからは、市民マラソン大会の企画や、美祢市陸協の事務局、県陸協の審判を担当し、また母校陸上部のコーチとしても活動した。本人が「半世紀を超えるランニングとのお付き合い」と語る通り、その後も市民マラソンの普及活動に関わり続け、2007年には自身主宰の「山ロランニングネットワーク」を立ち上げた。

財団職員(山口県教育財団)という本業がありながらも、「山口県の市民マラソンを盛り上げたい」という思いで、休日にはプライベートな時間のほとんどを山ロランニングネットワーク「市民マラソンアドバイザー」

の活動に充ててきた。ジョギング教室の開催、市民ランナーのためのランニング合宿、リレーマラソンやマラニック大会の主催などを約20年継続し、現在に至る。

山口県内外のマラソン大会の手伝いやアドバイス、下関海響マラソン公式イベントの講師なども務めており、その根幹には「無理せず、楽しく、正しく」ランニングと関われる人が増えてほしい、という願いが常にあ

る。練習会でも「がんばれ!」とは決して言わず、「無理しちゃダメよ!」が口癖だ。初対象者のイベントだけでなく、2017年には周南24hリレーマラソン、2019年には赤間関街道中道筋マラニック大会を企画運営し、またコロナ禍の2020年には「密」を避ける工夫をして「萩往還ビクニックラン」を開催、地元ランナーやウルトラランナーから大変喜ばれた。

## 受賞コメント

私の自慢はこれまでに多くの素晴らしい人々と出会ったことです。それぞれの出会いから大きな刺激を受け、ランニング愛

がさらに高まり、山口県での市民マラソンの普及活動に専心できたとおもいます。「人生100年」と言われるようになり、健康寿命がより問われる時代となりました。大好きなランニングで、晩年まで人生を元気に楽しめる人が増えていくよう、今後も自分スタイルの普及活動に努めてまいります。



20代の頃、中国山口駅伝に「美祢市チーム」で出走



「Mine 秋吉台ジオパークウルトラマラソン」。第1回大会の2024年、今年2025年とレースディレクターの立場で運営全体をコントロールした

## ランナーズ賞規程

- 主催** 公益財団法人ランナーズ財団
- 主旨** 市民ランニングの普及・発展に貢献した「人」「団体」「大会」などに対し、その功績を表彰
- 表彰** 正賞としてトロフィー、副賞として賞金200万円を贈呈 ※大会には記念碑を贈呈

- 募集内容** 一般公募制。募集の詳細は公益財団法人ランナーズ財団の公式ホームページにて公開
- 推薦内容** 本賞の主旨に沿ったものであり、その評価対象となる事項が市民ランニング界に広く貢献するものであること。健康の尊さを身を持って示し、ランニングの素晴らしさをより多くの人々に伝え、地域活動に活かし、その普及・向上に努めていること
- 選考方法** ランナーズ賞事務局による一次審査後、選考委員会により最終決定

ランナーなら走ってみたい皇居の外周約5キロ

## 「皇居ラン」コース



## 皇居ランの魅力

- 1周5kmのコースを信号無しで走れる
- どの駅からも出やすくアクセスがいい
- 近隣にシャワー施設が多く、仕事前後も走りやすい
- 街灯や皇居警備の警察官が配置されているので夜も安心
- 二重橋や千鳥ヶ淵公園など東京の観光スポットを眺められる



## 皇居ランのマナー

- 歩道は歩行者優先
- コースは反時計まわりで、歩道の左側走行が基本
- 道が細くなる場所では1列に
- 追い抜くときはひと声かけて外側から
- タイムよりもゆとりを持って



## 周辺施設 2025 最新情報

皇居周辺には、シャワーやロッカーを完備したランニングステーション（ランステ）が多数存在する。ビジター利用できるのも、遠方から東京に来る人も立ち寄りやすい。下記から店舗ごとの独自サービスや特色をチェックしてみよう。ランステを活用すれば、より快適に皇居ランを楽しめる。

各店の詳細情報をチェック！  
公式サイトへのリンクは  
こちらから⇒



1

ほぼ毎日開催の練習会あり  
HIBIYA RIDE (ヒビヤライド)

営業時間 平日 6:30~23:00、土 8:00~20:00、日 8:00~18:00  
定休日 年末年始(12/30~1/3) 料金 800円 TEL 03-3591-1462  
所在地 千代田区日比谷公園 1-2

日比谷駅 A14 出口から徒歩1分、日比谷公園の地下駐車場内に店舗がある。インターバルや30km走から街ランまで多彩なメニューの練習会はほぼ毎日開催。なかには初回無料になるものも。練習会参加者は施設利用料が200円割引適用に。女性更衣室入口にはブーツを置ける専用棚が用意。



2

桜田門からのランスタートに  
ラフィネ ランニングスタイル Neo

営業時間 平日 7:00~22:00(最終受付 21:00)、土日祝 7:00~20:00(最終受付 19:00)  
定休日 年中無休 料金 850円 TEL 03-6205-4858  
所在地 千代田区有楽町 1-1-2

日比谷駅 A11 番出口を出てすぐ、ミッドタウン日比谷 MB 1階駐輪場先のアクセス。休憩スペースには7分100円で利用できる足のマッサージ機がある。レンタルシューズ(有料)はレーシングとトレーニングそれぞれに特徴の異なる直近モデルを取り揃えている。受付では靴下、ボクサーブリーフ、ヘアブラシ等も購入可。



3

選べる豊富なアパレルが楽しい  
アシックスラン東京丸の内

営業時間 平日 6:30~21:30(最終受付 20:30)、  
土日祝 7:30~19:00(最終受付 18:00)  
定休日 不定休 料金 1500円  
所在地 千代田区丸の内 2-5-2

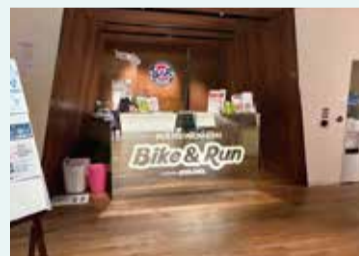
アシックスストアに併設されたランステ。ストアにはシューズもウェアも最新モデルが並ぶ。陳列されたレンタル品は1点330円で利用可。シューズは走力別に多彩なモデルを揃え、ウェアもデザイン豊富。

4

東京駅直結の多目的ランステ  
MARUNOUCHI Bike&Run

営業時間 平日 6:30~22:00(最終受付 21:20)、土日祝 6:30~19:00(最終受付 18:20)  
定休日 不定休 料金 1200円 TEL 03-6269-9806  
所在地 千代田区丸の内 1-5-1

東京駅直結。皇居にも出やすい。駐輪場併設が特色で保管も可能。フリースペースにはストレッチポールやヨガボールがある。トレーニングマシン30分500円、体組成形測定も300円で利用可能。レンタルウェアはJINGER コラボデザイン、スポーツブラはワコールのCW-Xが揃う。また、レンタサイクルも行なっている。



「皇居ラン」コースは1周約5km、高低差が約30mと程よいアップダウンがある。どこから走り出してもよいが、スタート地点として利用されることが多いのは「桜田門」「竹橋」「半蔵門」。広場なので準備運動がしやすく、トイレがある。マップ記載のkm表示は桜田門からスタートした場合のもので、ここをスタート地点にすると最初は平坦なコースが続くため、ランニング初心者に適している。



5

多彩な練習会とホテルライクな広々シャワー室  
ラフィネ ランニングスタイル Otemachi One

営業時間 平日 7:00~22:00(最終受付 21:00)、土日祝日 7:00~20:00(最終受付 19:00)  
定休日 年中無休 料金 1000円 TEL 03-6269-9097  
所在地 千代田区大手町 1-2-1

大手町駅のC4・C5出口直結。練習会はランステ主催のものだけで月20回以上あり、メニューはインターバルから距離走まで多彩。また、パーソナルレッスンも1回1時間8000円(回数割引あり)から150分コースまで用意されている。シャワー室は各脱衣所ごとに施設できる。「手ぶらセット」(シューズ・ウェア・ソックス一式レンタル)あり。



6

ランナーに愛される老舗銭湯  
稲荷湯

営業時間 14:40~22:30  
定休日 日曜日 料金 550円  
所在地 千代田区内神田 1-7-3

皇居まで徒歩10分。昭和30年創業。L字型の浴槽は大きく、3つのジェットバスを備えている。ランナー用に荷物預かりをしてくれ、入口にはランナー用のシューズ置き場もある。バン・ドゥーシュ閉店後、皇居を代表する老舗銭湯。

7

交代浴が楽しめる銭湯ランステ  
らくspa 1010(セントウ)

営業時間 11:00~翌 8:00  
(最終受付 翌 7:00)  
定休日 不定休 定休日 550円  
所在地 千代田区神田淡路町 2-9-9

日替わり風呂、炭酸泉、水風呂の3種類を楽しめるスーパー銭湯。荷物を預けない風呂のみの利用は550円。ロッカー利用の場合、最も小さいロッカーで300円。合計850円となる。浴室は浮世絵をステンドグラスにした窓に囲まれ、レトロな雰囲気。



イラストマップ / 鴨井猛

### 8 皇居ラン後は栄養満点の食事 10 OVER 9 RUN CUBE 錦町

営業時間 平日9:30~21:00 (最終受付20:00)  
土日祝9:00~18:00 (最終受付17:00)  
定休日 不定休 料金 900円  
所在地 千代田区神田錦町3-21

地下鉄竹橋駅から徒歩3分の立地。施設利用者はシューズレンタル無料。1階にある「東京アスリート食堂」の定食とドリンク1杯、バスタオルがついた「走ってプラン」というお得なセットもある。

### 9 ランナー向け施術で整えたい Re.Ra.Ku PRO 竹橋皇居前店 ランニング&ボディケア

営業時間 平日 7:00~22:00 (最終受付 21:00)、土日祝 7:00~20:00 (最終受付 19:00)  
定休日 不定休 料金 1000円 TEL 03-3214-2777  
所在地 千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 1F

竹橋駅直結、目の前が皇居というロケーション。ランステ機能だけではなく、「ケアの竹橋」をコンセプトに施術ブース、酸素カプセル、水素吸引など、自分自身ではケアしきれない部分をサポート。店舗内には、ラン前後のためのストレッチ用芝生スペースがある。



### 10 疲労を癒すこだわりのお風呂 梅の湯

営業時間 15:00~22:00  
定休日 日曜、祝日 料金 550円  
所在地 千代田区神田神保町 2-8-2

神保町徒歩1分のロケーション。ここをスタート地点にし、北の丸公園を抜けて皇居外周を走ると、全部で約7kmのコースになる。お風呂は、脚の痛みをはじめ、身体の様々なダメージに効果的なハイパージェットバス、ボディージェットバス、電気風呂が用意されている。

### 11 初心者も安心！走り方から学べる 半蔵門ランナースサテライト JOGLIS

営業時間 平日 7:00~22:00 (最終受付 21:00)、土日祝 7:00~18:00 (最終受付 17:00)  
定休日 不定休 料金 1000円 TEL 03-3221-6100  
所在地 千代田区麹町 1-7-B1F

半蔵門駅徒歩3分のロケーションで、横断歩道を渡ってすぐ目の前が皇居。新商品を試すことができたり、補給食やドリンクなどの物販の種類も多い。毎月、マラソン女子元日本代表・市河麻由美さんのイベントや「皇居ラン入門」「おやつラン」などランナーのレベルに合わせた各種練習会を開催している。



### 12 おしゃれな店内と美味しい食事 Re.Ra.Ku PRO 永田町店 ランニング&カフェ

営業時間 平日 7:00~22:00 (最終受付 21:00)、土日祝 7:00~20:00 (最終受付 19:00)  
定休日 不定休 料金 1000円 TEL 03-6261-6106  
所在地 千代田区平河町 2-16-1

打ちっぱなしのコンクリートにレザーのソファが並ぶスタイリッシュな店内。「食の永田町」をコンセプトにランチタイムには併設のカフェで、「筋肉食堂」のタンパク質豊富なお弁当を用意。薬膳発酵コーラ、ハーブ入り発酵ジンジャーエール等、ドリンクが充実。ビールも注文できるので、夜は「ラン後の一杯」もおすすめ。

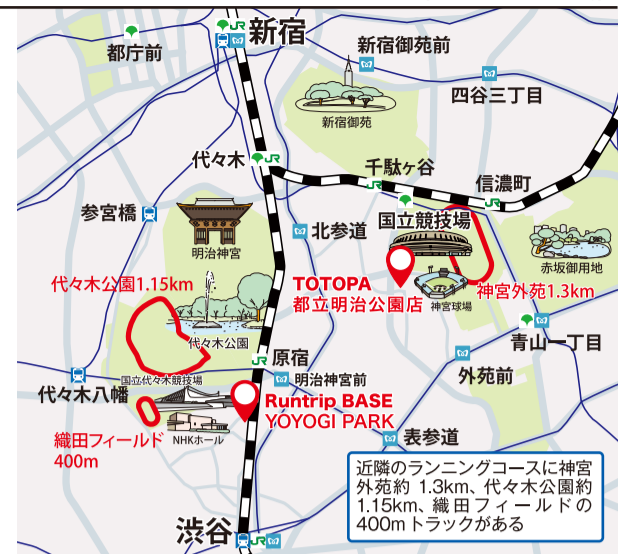


## HOT NEWS

## 官から民へ。Park-PFIとランニング施設の新潮流

公園の管理や運営を民間事業者へ委託し、地域の魅力を活性化させる「Park-PFI（公募設置管理制度）」。この制度を活用して、2つのランニングコミュニティ拠点が東京都に誕生した。Park-PFIは、京都市、福岡市、さいたま市、大阪市などで導入が進んでいるが、事例の多くはカフェや文化交流施設が中心で、ランニング施設の整備は珍しい。住民の健康増進・地域交流・都市ブランドの強化といった期待が込められた、新しい流れに注目したい。

PFI=Private Finance Initiative 民間の資金や経営能力、技術などを活用し、公共施設等の設計や管理、運用を効率的・効果的に行う手法



イラストマップ / 鴨井猛

## ランナーの継続課題に着目して開設された施設

## Runtrip BASE YOYOGI PARK



ユーザー 30万人以上のランニングアプリを展開するラントリップが、2025年6月、代々木公園BE STAGEにランニングステーション「Runtrip BASE YOYOGI PARK」をオープン。走行距離に応じてドリンクが無料になる仕組みと、ランナー同士の交流を促すため施設内にカフェを併設し、人々が継続してランニングを楽しめる環境を整える。アプリを使って走ると1kmにつき0.1円が渋谷区のスポーツ振興や代々木公園の環境保全に寄与される。

施設設立については、民間事業者を公募し都市公園を整備する東京都の「公募設置管理制度 (Park-PFI)」を活用し、東急不動産等4社が準備を進めてきた。そこから東急不動産の声掛けでラントリップが発起人となり、2021年から構想4年、様々な企業の協力を得て開業にこぎつけた。オープン後は、Runtripのアプリ上でしか知らなかったランナー同士がランステで初めて出会うこともあるという。

「ここに来れば知り合いに会えるから」「スタッフに会いたいから」。そのような場として気軽に立ち寄りてもらいたい、と店長の並木さん。今年10月都内で開催された大型ハーフマラソンの大会当日は、完走者限定で施設使用料を無料にした。完走メダルを下げた人同士が「ナイスランでした」と声を掛け合っていた。今後も地域のインフラとして、「楽しみながら健康になれる」ビジョンを体現していくことを目標としている。

営業時間	平日：7:00~22:00 (最終受付 21:00) 土日祝：7:00~20:00 (最終受付 19:00)
定休日	不定休
料金	Runtrip 会員 880 円、一般 1100 円
住所	渋谷区神南 1 丁目 1 番 1 号 3 階



## ランニングコミュニティ「Runner's Park Tokyo」の拠点

## TOTOPA 都立明治公園店



2024年3月、東京建物及び東京建物リゾートは、「Park-PFI（公募設置管理制度）」を活用した事業として都立明治公園を設立した。

園内に開業した都市型スパTOTOPA（トトパ）では薬草スチームによりデトックスできる蒸し風呂、複数のユニークなサウナ、水深160cmの水風呂ほか、フィットネススペースを設けることで「運動×リラクゼーション」による新しいスパ体験を提供。加えて、東京建物、三井物産、日本工営都市空間、西武造園、読売広告社、日テレアクセスの6社を構成員とする共同事業体「Tokyo Legacy Parks 株式会社」が「Runner's Park Tokyo」を立ち上げ、ニューバランスジャパン、大塚製薬、ガーミンジャパン協賛のもと、公園を拠点にランナーが集まり仲間やコーチを見つけられる新しいかたちのランニングコミュニティを目指す。

Runner's Park Tokyoの会員になるとTOTOPAを割引等の利用ができるほか、各種イベントに参加したり、最新シューズの試し履きやドリンク提供といったスポンサーブランドのサポートも受けられる。国立競技場に隣接し、神宮外苑のランニングコースにも至近という立地と、トレーニング後にサウナでスッキリ疲労抜きできるTOTOPA利用のメリットを活かし、Runner's Park Tokyoでは直近でもシティランやロゲイニングといったイベントを開催、ランニング界に新しいムーブメントを生み出している。

営業時間	11:00 ~ 23:00 (22:00 最終受付)
定休日	年中無休
料金	ランナーズロッカー 3時間 1100 円
住所	新宿区霞ヶ丘町 5-7
TEL	03-3274-0865



## ランナーズ財団

会長  
橋本治朗

理事長  
野平 修 (公益財団法人ランナーズ財団 常勤理事)

理事  
増田明美 (スポーツジャーナリスト)  
福田六花 (医学博士、ミュージシャン)  
安達知希 (株式会社電通)  
船津智成 (公益財団法人ランナーズ財団 常勤理事)

## 評議員

前河洋一 (新潟食料農業大学 教授・陸上競技部 監督)  
喜吉 憲 (キヨシアンドパートナーズ株式会社 取締役)  
小川孔輔 (法政大学 名誉教授)  
築留康夫 (弁護士：西村あさひ法律事務所)

## 監事

中田昭弘 (公認会計士)

## 名誉理事長

下条由紀子 (初代月刊ランナーズ編集長)

2025年12月9日発行

発行者 公益財団法人ランナーズ財団 〒106-0032 東京都港区六本木 6-15-1 けやき坂テラス

印刷所 新星社西川印刷株式会社

© RUNNERS FOUNDATION. All Rights Reserved.



## 「ランナーズ賞」デザイン、日本と世界でW受賞!

2025年秋、「ランナーズ賞」のブランドデザイン (トロフィー&ロゴ) が国内外の権威あるアワードを連続受賞しました。1957年創設のグッドデザイン賞は、デザインの優劣を競うだけでなく、「デザインによって社会や生活をどのように改善できるか」という視点から評価される、世界でも類を見ない日本のデザインアワード。そしてRed Dot Awardは、1955年から続く世界で最も権威あるデザイン賞の一つで、今年は世界約70カ国から応募が集まった中での選考でした (主催地ドイツ、エッセン)。